

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

学報

平成14年7月 事務局総務課発行 第192号

初任教員研修



(関連記事18ページに掲載)

目 次

会議報告

全国国立工学系学長懇談会.....	3
第52回国立大学工学部長会議.....	4
平成14年度北海道地区国立大学長会議.....	4
第110回国立大学協会総会	5
平成14年度全国国立大学長会議.....	5

入試試験

平成15年度入学者選抜要項.....	6
平成15年度大学院工学研究科博士前期課程.....	9
一般・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜各募集要項	
平成15年度大学院工学研究科博士後期課程.....	13
社会人・外国人留学生選抜各募集要項	
平成15年度編入学試験（推薦による選抜）の実施.....	13

研究助成

平成14年度民間等との共同研究の受入状況.....	14
平成14年度受託研究の受入状況.....	14
平成14年度奨学寄附金の受入状況.....	15

人 事

住所変更等.....	16
------------	----

諸 報

厚谷郁夫前学長に名誉教授称号授与.....	17
初任教員研修の実施.....	18
父母との懇談会（春季）開催.....	18
平成13年度奨学・奨励金の授賞式の実施.....	19
第40回大学際について.....	20
総合研究棟新営工事のお知らせ.....	21
総合研究棟新営工事に伴う交通規制のお願い.....	21

規 程

北見工業大学事務組織細則の一部を改正する細則.....	22
（北工大達第17号）	
北見工業大学の支出負担行為担当官、支出官、資金前渡官吏 及び契約担当官の補助者に関する規程の一部を改正する規程.....	22
（北工大達第18号）	
北見工業大学における出納官吏及び出納官吏代理の官職指定.....	23
に関する規程の一部を改正する規程 （北工大達第19号）	

日 誌

5月・6月

*住所変更等については、6月24日まで掲載しました。

＝会議報告＝

全国国立大学工学系学長懇談会

平成14年5月9日(木)・10日(金)

当番大学：茨城大学、出席：常本学長

最近の各大学の動向について以下のような意見交換が行われた。(全国工学系30大学中23大学長が出席)

1. 再編・統合について

再編・統合の話し合いが進んでいる大学から以下のような報告があった。

1) 東京商船大学(東京水産と平成15年10月統合予定)

単一学部化か2学部化が焦点であったが、海洋工学部と海洋科学部で合意される。融合は主として大学院で行い、1研究科とした。

2) 山梨大学(山梨医科大学と平成14年10月に統合)

名称を山梨総合大学と考えていたが山梨大学の名称を私立に使用されることも考慮し、最終的には山梨大学とした。ただし、一旦は両大学とも廃止し新しい山梨大学を作る手続きとなる。したがって、新設のための設置準備委員会を作って学長などの選考を行う。

3) 神戸商船大学(神戸大学と平成15年10月統合予定)

昨年4月から統合協議会において理念、基本方針について6分科会を作って協議を重ねた。商船大は海事海洋学部となり、自然科学研究科に一体化する。

4) 九州芸術工科大学(九州大学と平成15年10月統合予定)

平成13年2月に発表、7月に調印、8月に協議会設置。4つの分科会(教育、研究、財務、管理)を作って協議を進める。内容の重複がないので、協議は順調に進んだ。芸工大は13番目の学部となる。

5) 佐賀大学(佐賀医科大学と平成15年10月に統合予定)

両大学は、早い時期から研究会などの交流があった。昨年12月に合意、大学名は未定だが、大学設置法の関連で佐賀大学も一例と考えている。

6) 大分大学(大分医科大学と平成15年10月統合予定)

教養教育が決まっていない、融合の内容が明確でない、教育学科の取り扱いも未定などまだ問題が多い。

2. 個性かがやく大学に関する取り組み

数大学における特徴ある大学作りの例が紹介された。

1) 愛媛大学の英語センター

従来の教養系非常勤を減らし、英語の非常勤を増員。トータル20人のうち常勤の7人はネイティブの先生で、従来の先生は大学院などの特別コースなどを受け持っている。

2) 北陸先端科学技術大学院大学

博士後期のインターネット入試の実施で多くの外国人が集まるようになった。

試験は修士論文と今後の研究計画についてネット上で討論し、3人の教官で判定する。

3) 佐賀大学

前期課程に英語特別コースを設ける。主として協定35大学に対応、希望者が多い大学には大学から出向いて試験を行う。

4) 九州大学

学部・学科に属さないで、学年進行に伴い自分で決めることができる「21世紀プログラム制度」を実施している。定員20人に多数の応募があったが、書類審査、一泊の討論式面接などで決定、合格者のアクティビティは高い。この学生は大学院進学が基本で、1年間の留学に資金支援も行う。

3. 法人化への対応

各大学の取り組みについて紹介等あったが、法制化されていないことと大学単独で決められない問題も多く、国大協としてガイドラインを

作るよう委員となっている先生方に依頼した。

第52回国立大学工学部長会議

平成14年5月16日(木)・17日(金)

出席：鮎田副学長

1. 文部科学省からの報告概要

1) 大学における国際教育協力の促進について
大臣官房国際課岡谷国際協力政策室長から、JICA等主要な国際機関の調査・研究案件に対する参画が我国の大学では教官個人にとどまっているので、独法化までに大学の組織としての国際協力に向けて、体制整備等、対応策の準備に着手することが必要であるとの説明がなされた。

2) 平成14年度予算について

高等教育局徳久専門教育課長から、筑波・山梨大学の再編・統合、神戸・一橋大学の専門大学院の新設整備等大学の教育研究の高度化、育英奨学事業の充実、国費留学生250人増等留学生交流の推進など平成14年度予算の主要事項、特に21世紀COEプログラムに新規182億円、科研費(123億円増)等競争的資金2,656億円(97億円増)などの説明がなされたほか、ベンチャービジネスの経営戦略を扱うビジネス講座開設が理工系大学にも要望された。

2. 協議事項

1) JABEE対応及び工学倫理教育について
JABEEの本格認定作業の段階を迎え、認定審査試行を実施した東北大学等からその対応状況や問題点及び倫理教育の状況について説明がなされた。

2) 大学評価等各種評価への対応について

第三者評価に対する荷重負担に関して、名古屋大学から評価情報分析室を設置し、大学全体としてのデータの蓄積を始め、今後の評価に対応しようとしていること、東京大学から国立大学8工学部会議として大学評価・学位授与機構に対して、多元的評価と個性的評

価のバランスへの配慮、評価業務負担の改善等を書面で要望するとの説明があった。

3) 産学官連携の一層の推進方策について

各大学の産学官連携の発展に向けての具体的方策についての意見交換を行った。

4) 工学部・工学研究科としての教育システムの今後のあり方について

東京大学から既存の学科・専攻を横断するような教育システムの工夫、教育支援ソフトの必要性や遠隔教育システムの活用などの課題の解決にあたり、個々の教員が多くの時間を割く余裕がない状況説明があり、対応方法について意見交換を行った。

平成14年度北海道地区国立大学長会議

平成14年5月21日(火)

幹事大学：北海道教育大学

出席：常本学長、大内局長

会議では以下のような協議が行われた。

1) 法人化の検討状況

法人化に関する検討は北大で進められているが、他の大学は組織を立ち上げた段階で、まだ実質審議を行っていない。なお、国大協の法人化特別委員会は、文部科学省と折衝し文部科学省、国大協、大学が検討すべき項目を調整することになっている。多くの事項についてガイドライン、モデルが作られる見込みであり、道内の大学においても事務レベル等で分担あるいは共同作業を進めるなど北大に検討を依頼した。

2) 再編統合に対する検討状況

道内6単科大学での統合について意見交換を行った。良い案であれば参加する、あるいは大学名が残って発展できるならば加わると言った消極派が多く、本学あるいは室蘭工大のような積極統合の大学との違いが大きい。なお、副学長による研究結果を下に、統合の時期等を学長懇談会等で検討するよう要望した。

3) 大学評価に関する取り組み

各大学とも作業量の多さを指摘。目標の設定によって自己評価が異なるが、この矛盾を持ちながら評価が公評されることに問題があるなどの意見があった。

第110回国立大学協会総会

平成14年6月11日(火)・12日(水)

学士会館(東京)

出席：常本学長、大内事務局長

本年度から学長および局長が出席して会議が開催されることになったが、以下のような報告あるいは協議が行われた。

1. 報告事項

1) 各種委員会報告

第2常置委員会から第8常置委員会の活動報告があった。

この中での特記事項として、第2常置委員会では、平成18年度入試に向けた検討を行い、大学入試センターに検討結果を報告したこと。第3常置委員会では就職の早期化による教育への影響が調査されており、アンケートを実施し解析をしていること。第7常置委員会では助手問題について協議しているが、法人化に向けた対応の中で検討される事項であり、当面議論は凍結することなどの報告があった。

2) 大学入試センター報告

平成14年度入試の結果が報告された。開示要求が30数万件あったが、特に問題となるものはなかった。なお、次年度も大学入試センター試験を使用する私立大学が増える予定である。

2. 協議事項

1) 18年度入試の出題・科目について

第2常置委員会で検討していた18年度出題科目について、入試センターへ提出する内容の提案があった。主な内容としては、地歴の2科目受験、英語のリスニングテストは前向きに検討すること、情報については今後の課題とすることとした。

2) 法人化特別委員会の検討事項

法人化に向けた作業が進められているが、文部科学省、大学、国大協の作業分担表が提示され、これらを受け以下のような意見が出された。

国立大学法人法は通則法とどこが異なるのかとの質問に対し、独立法人制度の中ではあるが通則法とは別の法律を作る。もちろん通則法のパーツは使うことになるとの回答があった。また、地方が不利になる要素が多いので、検討委員会などに地方大学の委員を入れるよう要望があり了承された。また、改革サイクル、あるいは評価と予算配分は国の関与が強くなりすぎるので、検討するよう要望があった。

3) 国立大学協会のあり方検討特別委員会の検討事項

国大協の今後の役割について、多くの意見が届いており資料として配布された。これらをもとに議論があったが、国大協の役割として、人事交流の窓口、シンクタンクの役割、労使関連の対応などが考えられるのではないかと、あるいは大学評価委員会の役割を取り入れたり、高等教育の方針決定の圧力団体になる必要があるなどが主な意見として出された。

平成14年度全国国立大学長会議

平成14年6月13日(木)

学士会館(東京) 出席：常本学長

国大協総会に引き続き、文部科学省主催の学長会議が開催され次のようなことが報告された。なお、報告に先立ち遠山大臣から次のような内容の挨拶があった。

今回の法人化は新しい大学像を作るチャンス、改革・新生を目指すこと。全学の意識改革を進め、学長中心に良い競争環境のもとで特色を出すこと。また、国際競争力、個性輝く大学のために狙いを持った大胆な統合を進めること。特に教員養成大学は教員の質、大学設立の目的が

あいまいになっていることを考えると、近隣の統合も含め統合を進めること。なお、特化大学院を作って高度専門職業人を養成するとともに、産学官の連携を促進するが、一方基礎研究も重視することなどが話された。

引き続き、工藤高等教育局長の挨拶の後、資料に基づき各局長等から報告があった。局長挨拶の主旨は以下のような内容である。

- 1) 予算の執行について：投資効果のあるものにしてほしい（例：北見工大の傾斜配分）。また、ないからできないと言わず工夫してほしい（例：山口大学、時間外センター、東工大の戦略室、広島大のお薬制度）。
- 2) 再編統合について：歴史、部局を超えて真剣に取り組んでほしい。大学のイメージを作る改革である（例：材料は東北大学、哲学は京大、肝移植は信州大など）。店を張っている

が活力がない、特徴を明確にし、イギリスの大学のような変革を期待する。

- 3) 組織体制の見直し：自己点検が機能していない。法学部であればロースクールの発想は、これまでの法学部の問題指摘を理解していない。また、教員養成系はそのままにしてロースクールの要求するなどしても認められない。
- 4) 法人化について：法人化は手段・方法であり、目的は大学の活性化、立場の違いがあっても大学を良くしようとの思いは同じである。非公務員になると優秀な人材が来なくなるとの心配があるようであるが、大志のない人材は来なくても良いのではないが。
- 5) 存在感を示す：教育、研究、社会貢献でアピールすること（例：お茶の水のアフガン支援、信州大の優秀学生賞、広島大の学生支援、福井大学の不登校支援、北見工大のソーラーカーなど）。

=入試=

平成15年度入学者選抜要項

I 入学試験の概要

1 試験の実施方式

入学試験を分割し、「前期日程」及び「後期日程」の両試験日程でそれぞれ入学者を募集する分離分割方式で入学者選抜を実施する。〔一般選抜〕

なお、入学定員の一部（62人）について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し調査書を主な資料として判定する推薦入学を実施する。

〔特別選抜（推薦入学）〕

また、後期日程の募集人員内で、学力検査を免除し成績証明書、小論文、面接等により判定する帰国子女選抜を実施する。

〔特別選抜（帰国子女）〕

2 一般選抜の出願について 略

II 入学定員（募集人員）

学 科	入学定員	募集人員		
		前期日程	後期日程	推薦入学
機械システム工学科	80人	40人	28人	12人
電気電子工学科	80人	42人	30人	8人
情報システム工学科	60人	23人	25人	12人
化学システム工学科	60人	30人	18人	12人
機能材料工学科	50人	22人	22人	6人
土木開発工学科	80人	32人	36人	12人
合 計	410人	189人	159人	62人

注1 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含む。

2 推薦入学の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集する。

Ⅲ 一般選抜

前期日程

- 1 出願資格 略
- 2 志望学科 略
- 3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、出身学長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 大学入試センター試験の配点

区 分	教科及び配点			配点合計
	数 学	理 科	外国語	
大学入試センター試験	400点	200点	200点	800点
計	400点	200点	200点	800点

(2) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目

数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ) と (数Ⅲ・数Ⅳ、工から1科目) の計2科目

理 科 (物ⅠA、物ⅠBから1科目) と (化ⅠA、化ⅠBから1科目) の計2科目

外国語 (英、独、仏、中、韓から1科目)

数学(工)及び理科(物ⅠA、化ⅠA)については、受験できる者が限定されている。

(3) 健康診断 略

- 4 願書受付期間
平成15年1月27日(月)から
平成15年2月5日(水)まで
- 5 健康診断の期日(該当者のみ)
平成15年2月25日(火)
- 6 合格者の発表
平成15年3月6日(木)
- 7 入学手続期間
合格発表の日から
平成15年3月15日(土)まで
- 8 追加合格通知期間
平成15年3月28日(金)から
平成15年3月31日(月)まで
- 9 身体に障害を有する入学志願者の相談について 略

後期日程

- 1 出願資格 略
- 2 志望学科 略
- 3 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、本学が行う個別学力検査、出身学長から提出された調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 大学入試センター試験及び個別学力検査の配点

区 分	教科及び配点				配点合計
	国語	数学	理科	外国語	
大学入試センター試験	200点	200点	100点	300点	800点
個別学力検査	-	300点	200点	-	500点
計	200点	500点	300点	300点	1300点

(2) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目及び個別学力検査教科・科目

ア 大学入試センター試験教科・科目

国 語 (国Ⅰ、国Ⅰ・国Ⅱから1科目)
数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ) と (数Ⅲ・数Ⅳ、工、簿、情報から1科目) の計2科目

理 科 (総理、物ⅠA、物ⅠB、化ⅠA、化ⅠBから1科目)

外国語 (英、独、仏、中、韓から1科目)

数学(工、簿、情報)及び理科(総理、物ⅠA、化ⅠA)については、受験できる者が限定されている。

理科において、複数の科目を受験している者については、高得点の科目の成績を用いる。

イ 個別学力検査教科・科目

数 学 (数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ・数Ⅵ・数Ⅶ・数Ⅷ・数ⅧC)

数Ⅴは(数と式、数列)、数Ⅵは(ベクトル、複素数と複素数平面)、数Ⅶは(行列と線形計算、いろいろな曲線)を出題範囲とし、選択問題を出題する。

理 科

機械システム工学科
 電気電子工学科
 情報システム工学科
 (物ⅠB・物Ⅱ)
 化学システム工学科
 機能材料工学科
 土木開発工学科
 (物ⅠB・物Ⅱ、化ⅠB・化Ⅱか
 ら1科目)

(3) 健康診断 略

4 願書受付期間

前期日程と同じ

5 試験期日と及び試験場

期 日：平成15年3月12日(水)

試験場：北見工業大学

* 志願者が多数の場合、学外試験場(北見市内)も使用する。

6 健康診断の期日(該当者のみ)

平成15年3月12日(水)

7 合格者の発表

平成15年3月20日(木)

8 入学手続期間

合格者発表の日から

平成15年3月27日(木)まで

9 追加合格通知期間

前期日程と同じ

10 身体に障害を有する入学志願者の相談について 略

IV 特別選抜(推薦入学)

1 募集人員

学 科	募集人員
機械システム工学科	12人
電気電子工学科	8人
情報システム工学科	12人
化学システム工学科	12人
機能材料工学科	6人
土木開発工学科	12人
合 計	62人

2 選抜期日

平成14年12月6日(金)(志願者が多数の場合、7日(土)におよぶ場合もある。)

3 選抜方法

学校長より推薦された者について、調査書、推薦書、小論文、面接及び健康診断の結果を総合して行う。(面接の際、特に自己アピールできる資料があれば、持参すること。)

個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する。

なお、事前の書類選抜は行わないことを原則とするが、志望者が多数におよび日程上困難な場合は、事前に書類選抜を行うことがある。

4 出願期間

平成14年11月1日(金)から

平成14年11月7日(木)まで

5 出願要件

(1) 全国の国公私立高等学校若しくは中等教育高校を平成15年3月卒業見込みの者で、高等学校若しくは中等教育学校における学習成績・人物が優れ、健康状態が良好で、かつ、学校長が責任をもって推薦できる者

(2) 高等学校若しくは中等教育学校の調査書の国語、数学、理科、外国語の4教科の評定平均値が3.5以上の者

(3) 高等学校若しくは中等教育学校において、次の科目履修した者

国 語(国語Ⅰ)

数 学(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B)

理 科(物理ⅠB、化学ⅠB)

外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の内1科目以上)

ただし、工業に関する学科、理数科及びこれらに準ずる学科については、上記国語及び外国語のほか次の科目を履修した者

① 工業に関する学科

工業数理
 数 学 (数 学 I、数 学 II)
 理 科 総合理科、物理 (I A、
 I B)、化学 (I A、
 I B) の 3 区 分 から 2
 区 分 に わ た り 2 科 目

② 理数科

理数数学 I、理数数学 II、理数
 物理及び理数化学

③ ①及び②に準ずる学科については、
 その都度出願資格の事前審査を行う

6 合格発表日

平成14年12月18日(水)

V 特別選抜(帰国子女)

1 募集人員

各学科若干人

2 選抜期日

平成14年12月6日(金)

3 選抜方法

個別学力検査及び大学入試センター試験
 を免除し、成績証明書等の成績、小論文、
 面接及び健康診断の結果を総合して行う。

4 出願期間

平成14年11月1日(金)から
 平成14年11月7日(木)まで

5 出願要件

日本国籍を有し、保護者とともに海外に
 在住し外国の学校教育を受け、かつ、次の
 いずれかに該当する者

- (1) 外国において、学校教育における12
 年の課程(日本における通常の課程に
 による期間を含む。)を平成13年4月1
 日から平成15年3月31日までに修了し
 た者及び修了見込みの者。ただし、外
 国において最終の学年を含めて2年以
 上継続して在学した者

注 文部科学大臣が高等学校の課
 程に相当する課程を有するもの
 として指定した在外教育施設に
 在籍した者については、その期
 間を外国において学校教育を受
 けたものとはみなさない。

- (2) 外国において、スイス民法典に基づ
 く財団法人である国際バカロレア事務
 局から国際バカロレア資格証書を平成
 13年又は平成14年授与された者で、平
 成15年3月31日までに18歳以上となる
 もの

- (3) ドイツ連邦共和国の各州において大
 学入学資格として認められているアビ
 トゥア資格を平成13年又は平成14年に
 取得した者で、平成15年3月31日ま
 でに18歳以上となる者

- (4) フランス共和国において大学就学資
 格として認められているバカロレア資
 格を平成13年又は平成14年に取得し
 た者で、平成15年3月31日までに18歳以
 上となる者

6 合格発表日

平成14年12月18日(水)

平成15年度大学院工学研究科
 博士前期課程学生募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻	16人
電気電子工学専攻	16人
情報システム工学専攻	16人
化学システム工学専攻	14人
機能材料工学専攻	10人
土木開発工学専攻	20人
計	92人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成15年3月ま
 でに卒業見込みの者
 (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定によ
 り学士の学位を授与された者及び平成15年
 3月までに授与される見込みの者

- (3) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (4) 平成15年3月までに大学における在学期間が3年以上となる者又は外国において学校教育における15年の課程を修了する者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、本学大学院において認められた者
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものの
- (6) その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
注) 出願資格(4)により願い出る者の募集は、平成14年12月上旬に改めて行う。

3 願書受付期間

平成14年7月8日(月)から
平成14年7月12日(金)まで〔午後5時必着〕

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、本学を平成15年3月卒業見込の者は、本学での学業成績を審査し、学力検査を免除することがある。

(1) 学力検査・面接期日

- 第1日 平成14年8月26日(月)
- 第2日 平成14年8月27日(火)

(2) 学力検査科目及び日時

専攻名	科目	8月26日(月)		8月27日(火)
		10:00~12:00	13:00~17:00	10:00~
機械システム工学専攻	英語	必須科目	専門科目 材料力学、機械力学、熱力学、流体工学、機械製作学、制御工学 (6科目のうち3科目選択)	面接
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路	専門科目 制御工学、高圧工学、電子回路、送配電工学、電気機器学、半導体工学、伝送工学、電子計算機 (8科目のうち1科目選択)	
情報システム工学専攻	英語 *注①	情報基礎 *注②	工業数学、線形代数、フーリエ解析、知識工学、人工知能基礎論、情報符号理論、制御工学、デジタル画像処理、C/C++プログラミング*注③ (7科目のうち1科目選択)	面接
化学システム工学専攻	英語		物理化学、有機化学、化学工学、無機化学、分析化学 (5科目のうち3科目選択)	
機能材料工学専攻	英語		有機高分子化学、無機材料化学、材料物理化学、材料分析化学、電子材料物性、金属材料物性、複合材料物性 (7科目のうち2科目選択)	面接
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学、土質工学、応用物理学 (4科目のうち2科目選択) 橋梁工学、コンクリート工学、上下水道工学、港湾工学、河川工学、掘削工学、土木地質学、雪氷学、交通工学 (9科目のうち1科目選択) (合計3科目選択)	

* 全専攻とも筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。

* 全専攻とも電卓の使用を認めるので持参してください。

* 情報システム工学専攻の受験者は、

注① 英和辞典、和英辞典各一冊持込むことができます。

注② 出題の範囲は、離散数学、コンピュータアーキテクチャ、データ構造とアルゴリズムの内容を含みます。

注③ CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。

(3) 健康診断 略

6 合格発表

平成14年9月11日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料(前期分) 260,400円

【年額520,800円】(改定予定額)

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程 社会人特別選抜学生募集要項

1 特別選抜の趣旨

科学技術の急速な進展と社会情勢の変化に伴い、社会のリフレッシュ教育に対する需要が、近年、急速な高まりを見せている。このような要請に対応するため、企業・官公庁、研究機関、教育機関等において活躍中の社会人を、在職のまま受け入れ、高度な学識の修得と研究・開発能力の向上を図ることを目的として、本研究科に受け入れの道を開いている。選考にあたっては、実務経験に基づく専門知識や技術等を重視し、一般の選抜方法とは異なる特別選抜を実施する。

2 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも 若干人

3 出願資格

入学時において現に勤務している企業等で2年以上の技術関係業務の経験を有する者で、入学後も引き続きその身分を有し、所属長の推薦を受けられる者で、次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したものの
- (6) その他本学大学院において、大学を卒業

した者と同等以上の学力があると認められた者

4 願書受付期間

平成14年7月8日(月)から

平成14年7月12日(金)まで(午後5時必着)

5 出願手続 略

6 選抜方法

入学者の選抜は、個人面接、成績証明書、志願調書、研究計画書、職務経歴書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 個人面接

平成14年8月27日(火)午前10時から

(2) 健康診断 略

7 合格発表

平成14年9月11日(水)午後5時予定

8 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料(前期分) 260,400円

【年額520,800円】(改定予定額)

9 入学後の取扱い

原則として、一般の学生の例による。

ただし、入学後の企業等における身分(現職・休職等)については、当該企業等の定めるところによる。

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程
外国人留学生特別選抜募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	各専攻とも 若干人

2 出願資格

日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成15年3月までに卒業見込の者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成15年3月までに修了見込みの者
- (3) その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3 願書受付期間

平成14年7月8日(月)から
平成14年7月12日(金)まで(午後5時必着)

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、国費外国人留学生は、日本国(文部科学省)へ申請時に提出した書類を審査し、学力検査及び面接を免除する。

(1) 学力検査・面接期日

- 第1日 平成14年8月26日(月)
- 第2日 平成14年8月27日(火)

(2) 学力検査科目及び日時

科目 専攻名	日時		面接
	8月26日(月)		
	10:00~12:00	13:00~17:00	
機械システム工学専攻	英語	外国語科目	材料力学、機械力学、熱力学、流体工学、機械製作学、制御工学 (6科目のうち2科目選択)
		専門科目	
電気電子工学専攻	英語	電気磁気学 電気回路	制御工学、高圧工学、電子回路、送配電工学、電気機器学、半導体工学、伝送工学、電子計算機 (8科目のうち1科目選択)
情報システム工学専攻	英語		離散数学、コンピュータアーキテクチャ、データ構造とアルゴリズム (3科目のうち1科目選択) 工業数学(線形代数、微分)、知識工学、人口知能基礎論、情報符号理論、制御工学、デジタル画像処理、C/C++プログラミング* (7科目のうち1科目選択) (合計2科目選択)
化学システム工学専攻	英語		物理化学、有機化学、化学工学、無機化学、分析化学 (5科目のうち2科目選択)
機能材料工学専攻	英語		有機・高分子化学、無機材料化学、材料物理化学、材料分析化学、電子材料物性、金属材料物性、複合材料物性 (7科目のうち1科目選択)
土木開発工学専攻	英語		構造力学、水理学、土質工学、応用物理学 (4科目のうち2科目選択) 橋梁工学、コンクリート工学、上下水道工学、港湾工学、河川工学、掘削工学、土地質学、雪氷学、交通工学 (9科目のうち1科目選択) (合計3科目選択)

- 注① 筆記用具のほか、定規及びコンパスを持参してください。
- ② 電卓の使用を認めるので持参してください。
- ③ 情報システム工学専攻の*印の科目を選択する受験者は、CまたはC++どちらか一方の言語で解答してください。継承は除きます。

(3) 健康診断 略

6 合格発表

平成14年9月11日(水)午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円
授業料(前期分) 260,400円

【年額520,800円】(改定予定額)

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

平成15年度大学院工学研究科
博士後期課程学生募集要項
社会人選抜・外国人留学生募集要項

1 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
システム工学専攻	7人
物質工学専攻	5人
計	12人

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成15年3月までに修士の学位に相当する学位を授与される見込の者
 - (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号参照）
 - (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達したもの
 - (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- 注）出願資格(3)及び(4)により出願する者は、出願資格の事前審査を行う

3 願書受付期間

平成14年7月8日(月)から
平成14年7月12日(金)まで〔午後5時必着〕

4 出願手続 略

5 選抜方法

入学者の選抜は、面接（口述試験）、修士論文、（又はそれに代わる論文等）についての審査、出身大学・大学院の成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

なお、国費外国人留学生は、日本国（文部科学省）へ申請時に提出した書類を審査し、

面接を免除する。

- (1) 面接期日
平成14年8月28日(水) 午前10時から
- (2) 健康診断 略

6 合格発表

平成14年9月11日(水) 午後5時予定

7 入学時に要する経費

入学料 282,000円

授業料（前期分）260,400円

【年額520,800円】（改定予定額）

国費外国人留学生は、入学料、授業料とも不要。

平成15年度編入学試験（推薦による選抜）
の実施

平成15年度編入学試験（推薦による選抜）が実施されました。

各学科別の合格者数等は次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	10	3	3	3
電気電子工学科		1	1	1
情報システム工学科		0	0	0
化学システム工学科		0	0	0
機能材料工学科		1	1	1
土木開発工学科		1	1	1
合 計		6	6	6

＝研究助成＝

平成14年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
機能材料工学科	助教授	松田 剛	多孔性材料アロフェンの物性評価に関する研究	全日本環境事業協同組合
地域共同研究センター	助教授	宇都 正幸	農業用資材梱包ポリマーの耐寒性試験研究	ホクレン包材(株)
機械システム工学科	教 授	佐々木正史	融雪機能を有する太陽光/熱ハイブリットパネルの性能向上	積水化学工業(株)
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
土木開発工学科	教 授	佐渡 公明	自立稼働式微細気泡発生装置によるサロマ湖水質改善に関する実証試験研究	(株) 檜崎製作所
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	地中埋設管の寒冷地における凍結破壊現象の研究	(株)ブリヂストン
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	橋梁の劣化予測とその評価に関する研究	(株)中神土木設計事務所
土木開発工学科	助教授	三上 修一	橋梁の健全度診断と維持点検に関する研究	(株)中神土木設計事務所
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	L型プレキャスト擁壁の凍上対策設計法の開発	北海道土木設計(株)
化学システム工学科	教 授	小林 正義	健康建材の高機能化に関する研究	チヨダウーテ(株)
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	L型プレキャスト擁壁の凍上対策に関する研究	L型擁壁研究会
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	オホーツク産食素材より高機能食品の創出に関する研究	(株) はるにれバイオ研究所

平成14年度累計 46件

平成14年度受託研究の受入状況

(会計課)

所 属	職名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	オホーツク紋別空港におけるエプロンクラックに関する調査研究 平成14年5月～平成15年3月	北海道網走土木現業所	1,907,032 ^円
化学システム工学科	教 授	鈴木 勉	リグニン系機能性炭素材料の創製 平成14年5月～平成15年3月	科学技術振興事業団	390,000
化学システム工学科	教 授	吉田 孝	リグニン系分子素材の生理機能開発 平成14年5月～平成15年3月	科学技術振興事業団	390,000

所 属	職名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
情報システム工学科	教授 講師	藤原 祥隆 後藤文太郎	確率的推論と知的情報統合技術を用いたネット教育システムの開発 平成14年5月～平成15年3月	(社)北見工業技術センター 運営協会	円 4,195,708
機械システム工学科 機能材料工学科	教授 助教授	二俣 正美 伊藤 英信	溶射用複合ワイヤ製造法の開発と環境対応機能皮膜創製への応用 平成14年5月～平成15年3月	(社)北見工業技術センター 運営協会	4,312,909

平成14年度累計 8件

平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会計課)

所 属	職名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
機械システム工学科	教授	二俣 正美	「溶射技術の新規応用に関する研究」に対する研究助成	北辰土建(株)	円 500,000
機械システム工学科	助教授	三木 康臣	「ソーラービニールハウスの研究」に対する研究助成	(株)オーエム 研究所	31,800
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	「貴金属触媒の基礎的研究」に対する研究助成	田中貴金属 工業(株)	500,000
機能材料工学科	助教授	阿部 良夫	「工学研究」に対する研究助成	阿部 良夫	300,000
共通講座	教授	鈴木 一央	「体育・スポーツ研究」に対する研究助成	鈴木 一央	300,000
機械システム工学科	教授	尾崎 義治	「工学研究」に対する研究助成	日研理化学(株)	280,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	「工学研究」に対する研究助成	(株)鋼商	300,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	「橋梁維持管理システムの構築」に対する研究助成	(株)ドーコン	1,050,000
電気電子工学科	教授	細矢 良雄	「工学研究」に対する研究助成	細矢 良雄	300,000
未利用エネルギー 研究センター	教授	庄子 仁	「工学研究」に対する研究助成	庄子 仁	500,000
土木開発工学科	教授	佐渡 公明	「工学研究」に対する研究助成	佐渡 公明	500,000
	学長	常本 秀幸	「学生の育英」に対する助成	厚谷 郁夫	500,000
土木開発工学科	教授	高橋 修平	「寒冷地工学研究」に対する研究助成	陸別町しばれ 技術開発研究所	500,000
電気電子工学科	教授	野矢 厚	「次世代半導体デバイス評価技術の研究」に対する研究助成	(株)日立製作所	1,200,000
土木開発工学科	助教授	山下 聡	「工学研究」に対する研究助成	(株)豊水設計	100,000
土木開発工学科	教授	庄子 仁	「工学研究」に対する研究助成	(株)豊水設計	100,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	「工学研究」に対する研究助成	(株)豊水設計	100,000

所 属	職名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
土木開発工学科	助教授	後藤 隆司	「工学研究」に対する研究助成	(有)ズコーシャ	100,000 ^円
土木開発工学科	教 授	森 訓保	「工学研究」に対する研究助成	(有)ズコーシャ	100,000
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	共成製薬(株)	700,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	「雷に関する工学研究」に対する研究助成	北海道電力(株)	1,000,000

平成14年度累計 24件

海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
共通講座	教 授	照井 日出喜	ベルリン・フンボルト大学にてフランクフルト学派の批判理論に関する研究打合せ及び文献資料収集(ドイツ)	14.6.9 ~ 14.6.30
機器分析センター	助 教 授	南 尚 嗣	バイカル湖のメタンハイドレート調査 (ロシア)	14.6.18 ~ 14.7.1
機能材料工学科	助 手	坂 上 寛 敏	バイカル湖のメタンハイドレート調査 (ロシア)	14.6.18 ~ 14.7.1
化学システム工学科	教 授	吉 田 孝	遼寧省政府大連市・錦州市招へいによる資源環境問題に関する研究打合せ意見陳述。北京化工大学招へいによる天然高分子の機能化に関する研究打合せ (中華人民共和国)	14.6.19 ~ 14.6.25
電気電子工学科	教務職員	高 橋 理 音	セビリアにて開催されるPSCC'02に参加及び論文発表 (スペイン)	14.6.22 ~ 14.6.29
機械システム工学科	教 授	大 橋 鉄 也	米国理論/応用力学年次総会における招待講演及びワシントン州立大学にて研究打合せ (アメリカ)	14.6.23 ~ 14.7.4

所 属	職 名	氏 名	渡航目的及び渡航先国	期 間
化学システム工学科	教 授	鈴 木 勉	国際学会 (World Renewable Energy Congress VII) 出席及び発表。ハイデルベルク大学、トウェンテ大学で研究打合せ (ドイツ、オランダ)	14.6.28 ~ 14.7.7
電気電子工学科	教 授	田 村 淳 二	ベルリン市で開催する世界風力エネルギー会議に参加及び論文発表(ドイツ)	14.7.1 ~ 14.7.7
化学システム工学科	教 授	小 林 正 義	パリ大学にて研究討論、応用数学国際会議・膜国際会議出席 (フランス)	14.7.1 ~ 14.7.15
機械システム工学科	教 授	坂 本 弘 志	計算力学国際会議出席及び情報収集 (オーストリア)	14.7.5 ~ 14.7.18
電気電子工学科	教 授	山 城 迪	国際会議 ICEE2002出席 (大韓民国)	14.7.7 ~ 14.7.10
化学システム工学科	教 授	多 田 旭 男	国際無機リン酸塩材料シンポジウム及びインフォスワークショップ出席、招待講演、研究交流 (ドイツ)	14.7.8 ~ 14.7.15
機械システム工学科	助 教 授	閻 紀 旺	設計と生産技術のフロンティアに関する国際会議出席、研究発表 (中華人民共和国)	14.7.9 ~ 14.7.19
土木開発工学科	助 教 授	三 上 修 一	橋梁維持・安全管理に関する国際会議出席及びカタロニア大学にて研究打合せ (スペイン)	14.7.10 ~ 14.7.19
電気電子工学科	教 授	吉 田 公 策	電離気体の原子分子物理ヨーロッパ会議及び反応性プラズマ国際会議の合同会議出席・発表・討論 (フランス)	14.7.14 ~ 14.7.20

＝諸報＝

厚谷郁夫 前学長に名誉教授称号授与

(総 務 課)

4月17日開催の教授会において、本学前学長の厚谷郁夫氏に対して、4月1日付けで本学名誉教授の称号を授与することが決定されたことにより、5月15日(水)本学学長室において授与式が行われ、常本学長から名誉教授の称号が授与されました。

また、厚谷郁夫名誉教授には5月15日付けで本学高等学術研究員が委嘱されました。



初めての「初任教員研修」を実施

(教務課)

平成14年度初任教員研修を5月8日(水)第一会議室で実施しました。

この研修は、ファカルティ・ディベロップメントの一環として本年度から実施するもので、新任教員16名が受講しました。

常本学長から「本学の沿革、大学の改革等」、鮎田副学長から「FDの背景、国際交流等」、

高橋副学長から「学生関係事務、入学試験制度等」、総務課長から「サービス制度等」、会計課長から「外部資金の受入れ等」また、未利用エネルギー研究センター長による特別講演「燃える雪、メタンハイドレート」(表紙写真右下)などの研修内容であり、参加した新任教員は真剣に聴講しました。



研修受講者



常本学長の講義

父母との懇談会(春季)開催

(教務課)

父母との懇談会(春季)を5月19日(日)北海道大学学術交流会館を会場として、札幌地域在住の学部2・3・4年次及び大学院博士前期課程2年次の父母を対象として実施しました。

当日は、128組184人の父母が参加し、常本学長の挨拶をはじめ高橋副学長の全体説明に続いて、各学科、専攻に分かれて個別面談が行われました。

個別面談では、各学科の教員が対応し修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

また、本年度から個別面談までの待ち時間に常本学長、高橋副学長による父母との質疑等の時間が設けられ、父母から独立行政法人化及び国立大学の統合再編についての質問等が多く出され活発な意見交換が行われました。



会場風景



参加者に全体説明をする高橋副学長

平成13年度奨学・奨励金授賞式

(学 生 課)

本学奨学基金による表彰式が6月18日C122講義室で実施されました。今回は、昨年度の1年次から3年次の成績等優秀者18名が表彰を受けました。(4年次は学位記授与式当日表彰終了)

授賞式では、常本学長から受賞者一人一人に賞状と副賞授与及び受賞者への奨励を含めた祝辞があり、最後に受賞者を代表し、電気電子工

学科4年桃井寛美さんからお礼の言葉がありました。

その後、現4年次の受賞学生6名と高橋副学長との大学生活の有効な生き方や、大学への要望等を中心にした座談会が行われ、フロア一席の参加者からの発言もあり、勉強と遊びの配分等効果的な勉強の進め方や、本学をより良くするための提言等が話されました。

奨学・奨励金受賞者

学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
機械システム工学科	小 泉 亮 太	小 川 隼 平	大 島 崇 弘	細 矢 学
電気電子工学科	古 崎 雅 人	八 木 晃 次	桃 井 寛 美	川 田 正 弘
情報システム工学科	今 井 卓	宮 本 美 智 子	松 田 有 弘	菊 地 清 寿
化学システム工学科	金 子 祐 輔	加 藤 智 規	佐 藤 政 徳	井 上 富 男
機能材料工学科	三 国 直 弘	蝦 名 大 佑	小 野 塚 具 丈	吉 本 英 司
土木開発工学科	山 口 真 史	高 橋 直 之	田 中 友 紀	北 国 谷 友 史 成

(授賞学生の年次は昨年度のものによる)



第40回 大 学 祭

— テーマ 「炎・BURN・불꽃」 —

(学 生 課)

今年の大学祭は、6月22日(土)・23日(日)に開催されました。

両日とも肌寒く、時おり霧雨に見舞われる天気でしたが、テーマの「炎・BURN・불꽃」のように「炎のように燃えるような熱い大学祭にしたい!」を合い言葉に実行委員会を中心に金曜日から準備が行われました。家族連れや高校生等が多数訪れ、北見市民との交流が行われ成功裡に終了しました。

会場では、国際色豊かな留学生の模擬店、サークル発表、未利用エネルギー研究センターの

展示、大学祭実行委員会の特別企画「カラオケコンテスト」への常本学長の審査委員長としての参加や、「MISS コンテスト」「三輪車レース」等の多彩な催し物が終日くりひろげられました。

また、最近の若者の交通事故防止のため、市内自動車学校等の協力でエアバック体感・動体視力の計測・シートベルト体験試乗、交通事故パネル展が実施され、最後に無事故、無違反を祈り盛大な餅まきが行われました。



総合研究棟新営工事のお知らせ

(施 設 課)

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、未利用エネルギー研究センター及び大学院関連施設等を複合した総合研究棟の建設工事が行われています。工事期間中は騒音、振動及び工事車両の通行等によりご迷惑をおかけしますが、皆様のご理解とご協力をお願いします。

工事期間 平成14年7月中旬から約1年間
 構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造7階建て
 延べ面積 約5,430m²

総合研究棟新営工事に伴う交通規制のお願い

(会 計 課)

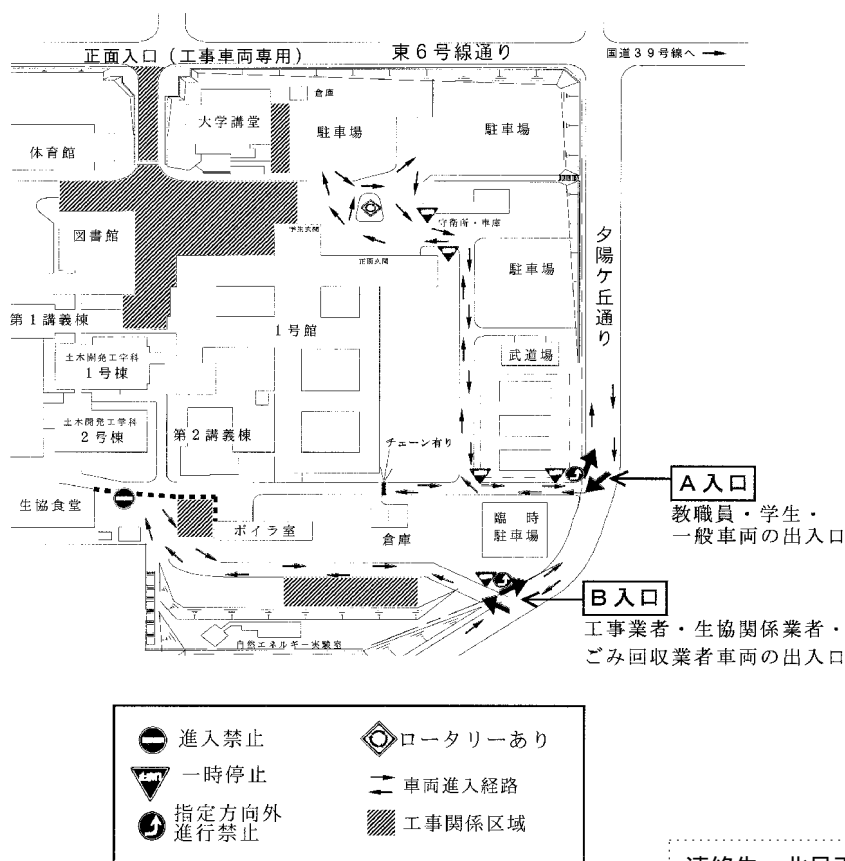
既に学内メール等でもお知らせ・お願いしていますが、総合研究棟新営工事のため、下図のとおり構内の車両交通規制を実施しています。

規制期間中、教職員・学生及び外来者にはご不便をおかけしていますが、事故の無いようにご協力をお願いします。

特に構内から夕陽ヶ丘通りへ出る際は、通りがカーブのため非常に見通しが悪く危険なため、右折禁止としていますのでご協力願います。

総合研究棟新営工事に伴う車両の交通規制図

(平成14年7月22日～平成15年7月末日)



連絡先：北見工業大学会計課管財係
 TEL 0157 26 9126

歩行者・自転車・バイクは従来どおり正面入口から入ることができます。
 学科棟方面へ車両を乗り入れる必要のある場合はA入口から入り、守衛所でチェーンの鍵を借りてください。
 構内から出る際は、警察の指導によりA入口・B入口とも右折禁止とさせていただきます。

＝ 規程 ＝

北見工業大学事務組織細則の一部を改正する細則

平成14年6月17日
北工大達第17号

北見工業大学事務組織細則（昭和42年6月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第5項中第5号及び第6号を削り、第7号を第5号とし、第8号を第6号とし、第9号を第7号とする。

第3条第8項に次の3号を加える。

- 六 前渡資金に関すること。
- 七 給与の支給及び所得税等の徴収に関すること。
- 八 所掌事務に係る調査及び報告に関すること。

附 則

この細則は、平成14年6月17日から施行する。

改正理由

会計課事務分掌の変更に伴う所要の改正

北見工業大学の支出負担行為担当官、支出官、資金前渡官吏及び契約担当官の補助者に関する規程の一部を改正する規程

平成14年6月17日
北工大達第18号

北見工業大学の支出負担行為担当官、支出官、資金前渡官吏及び契約担当官の補助者に関する規程（昭和44年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1（第3条関係）の表会計課の部中出納係長の項を削り、用度係長専門職員（契約担当）の項の次に次のように加える。

専 門 職 員 （情報処理担当）	諸給与に関する支出負担行為書案及び関係書類の作成
---------------------	--------------------------

別表第2（第4条関係）の表会計課の部出納係長の項事務の範囲の欄中第1号を削り、第2号を第1号とし、第3号から第6号までを1号ずつ繰り上げ、同部の用度係長専門職員（契約担当）の項の次に次のように加える。

専 門 職 員 （情報処理担当）	諸給与に関する支出決議書案及び関係書類の作成
---------------------	------------------------

別表第3（第5条関係）の表指定官職の欄中「出納係長」を「専門職員（情報処理担当）」に改める。

附 則

この規程は、平成14年6月17日から施行する。

改正理由

会計課事務分掌の変更に伴う所要の改正

北見工業大学における出納官吏及び出納官吏代理の官職指定に関する規程の一部を改正する規程

平成14年6月17日

北工大達第19号

北見工業大学における出納官吏及び出納官吏代理の官職指定に関する規程（昭和56年北工大達第13号）の一部を次のように改正する。

別表資金前渡官吏及び資金前渡官吏代理の表資金前渡官吏代理の項中「出納係長」を「専門職員（情報処理担当）」に改める。

附 則

この規程は、平成14年6月17日から施行する。

改正理由

会計課事務分掌の変更に伴う所要の改正

= 日誌 =

(総務課)

- | | | | |
|------|----------------------------------|------|---|
| 5月8日 | FD初任教員研修 | 6月1日 | 東北北海道国立三大学体育大会
(～2日) |
| 9日 | 第1回北見工業大学新任職員研修
第1回公開講座(～11日) | 4日 | 人事委員会 |
| 14日 | 総務委員会 | 5日 | 総務委員会
学術振興・国際交流基金運用委員会
行政監査(～7日) |
| 15日 | 名誉教授称号授与式
大学院専攻主任会議 | 7日 | 大学院専攻主任会議 |
| 16日 | 学生委員会
附属図書館委員会 | 10日 | 第2回独立行政法人化問題WG |
| 19日 | 春季父母との懇談会(札幌) | 11日 | 学生委員会 |
| 20日 | 入学者選抜委員会 | 12日 | 編入学(推薦)試験 |
| 22日 | 第648回教授会
第124回研究科委員会 | 13日 | 開学記念日
第2回再編・統合問題WG
北苑祭(～15日) |
| 23日 | 教務委員会 | 18日 | 平成13年度奨学・奨励金授賞式
入学者選抜委員会 |
| 25日 | 第34回東北北海道国立三大学定期体育
大会(～26日) | 19日 | 第649回教授会
第125回研究科委員会
編入学(推薦)合格発表
地域共同研究センター推進協議会 |
| 26日 | 工業英語能力検定試験 | 21日 | 休講 |
| 27日 | 第1回独立行政法人化問題WG | 22日 | 第40回大学祭(～23日) |
| 29日 | 第1回再編・統合問題WG | 24日 | 第3回再編・統合問題WG |
| | | 25日 | 第1回客員教授特別講演会
第2回公開講座(～7月9日) |
| | | 26日 | 第3回独立行政法人化問題WG |